

行事からの連続的な展開を中心とした表現活動事例

安 藤 千 秋

はじめに

平成30年4月に改訂された『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』には、幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」と小学校以降の教育との関連性を意識した「3つの柱」が示されている。改訂に携わった汐見は、幼児を変化の激しい社会を生き抜く力をどう育てるか、遊びを通して何が育っているか、育てたい資質・能力のベースになる非認知能力をどう育てるかが保育所・幼児教育機関としての役割があるとし、保育者として子どもが自分で自分を充実させる「自己充実」ができるように環境を作り、丁寧に応援していく「充実指導」とタイミングを見て興味を引きそうなものを教え導く「誘導保育」を取り入れ、幼児たちが自発的にやりたいことを上手に応援することが大事なポイントであると述べている¹⁾。

また、『幼稚園教育要領』の領域「表現」の取り扱いには、改訂箇所(1)・・・その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色などの自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。(2)・・・様々な素材や表現の仕方に親しんだり・・・がある²⁾。

筆者は昨年、領域の内容の取扱い改訂に含まれる、音・形・色・素材に着目し音遊びの一環として、幼稚園と保育園の5歳児対象に「きくこと；音の教育」手作り楽器や身近な素材の音を聴く活動、

「分析すること；音の調査・分析・解釈」幼児が聴きとった音をどのような形として聴こえたのかを絵として描画する活動、「つくること；音のデザイン」手作り楽器を制作し、手作り楽器3種類による音即興と、手作り楽器による会話的音即興の実践を行った³⁾。

そこで、本研究は5歳児のクラス行事後の連続的な展開に着目し、表現活動の実践事例から「誘導保育」について課題を模索し、次年度の実践内容の役立てることとする。

方法

1. 対象園と対象幼児

本研究の実践は、香川県Z市N保育園の5歳児クラス(18人、女児9人、男児9人)で行った。

2. 実践の概要

N保育園において、筆者が実践者として1回目「入園式」行事後の表現活動、2回目「雨の日」の表現活動、3回目「プラネタリウム見学」行事後の表現活動を行った。

2.1 N保育園5歳児、1回目活動：「入園式」行事後の表現活動

参加幼児：18人(女児9人、男児9人)

活動日時：2018年4月18日 13:30~14:30

活動手順：以下の①~⑥の手順で、担任との事前打ち合わせ、一人表現活動、擬音語表現活動、言語認知表現活動、オノマトペの掛け合い活動、音遊び活動を行う。

平成31年1月4日受理

連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地

香川短期大学 子ども学科

TEL 0877(49)8051 FAX 0877(49)5252

Email ando@kjc.ac.jp

① 〈担任事前打ち合わせ内容〉

筆者が入園式に参加した際に、入園児に披露するウエルカム曲として「はらぺこあおむし」の歌を聴いた。0歳児から2歳児にわかるように各自が描いた絵を持ち、いきいきと歌っている姿が印象的である。

事前打ち合わせでは「はらぺこあおむし」の歌と絵の制作は、4歳児クラス担任が3月に入り子どもたちに曲を紹介したことをきっかけに入園式で披露することになる。はらぺこあおむしの歌詞がわかるように、絵具とクレヨンで各自が描いた絵を3月に用意する。絵を見せてもらおうと絵具の水分量を調節した重ね塗りが見られ、濃淡を表現した個性あふれる作品で時間をかけて制作していることがわかる。

また、4月の子どもたちの興味は園庭にいてんとう虫探しに夢中と聞く。黒丸の数が違うことから図鑑で調べようとする姿があり、分かったことを伝えようとする姿など知りたいという好奇心が伺える。しかし、一方で4歳児からメンバーは変わっていないが全体的に意思表示が弱く消極的なクラスと聞く。現在、行動的で活発な男児の興味ある遊びにクラスみんなが影響される状況で遊びが始まっている。担任としては、一人ひとりが興味あることを見つけ意思表示でき、それぞれの表現ができるようになってほしいという思いがある。

そこで、4月は一人表現を中心に動き、声、表情を一人ひとりの個性を発揮できるよう一人表現活動、擬音語表現活動、言語認知表現活動と「はらぺこあおむし」の曲を使ってオノマトペの掛け合い活動、音遊び活動を行う。声や音で表現する「聴くこと・感じること・イメージすること」を楽しむ活動を計画する。

② 一人表現活動・・・「できたできたでいろいろポーズ」⁴⁾

おーちたおーちたなーにがおちたの替え歌で筆者の「でーきた できた なーにができた ロケット」の問いかけにポーズで表現する。筆者が「何になりたいか考えてね」の問いかけに「エビ、金魚、木」など答える。

・でーきた できた なーにができた ロケット
(両手を上に合わせ飛ぶ)

- ・でーきた できた なーにができた きんぎょ
(6人が床に寝そべって泳ぎだすとみんなが床の上で泳ぎだす)
- ・でーきた できた なーにができた 木(手を上に伸ばしたり広げたりする木になる)
- ・でーきた できた なーにができた 保育園の桜の木(両手をYの字に上げる、枝を掌上向き、掌下向き、枝を動かし始める)
- ・でーきた できた なーにができた 保育園の花:桜の花、チューリップ、ビオラ、タンポポ、菜の花、スナックエンドウ草の花(ヘンスの向こうの)、バナナの木、梅の花と保育園にはないが知っている花を言う。

幼児が思いついた言葉を替え歌にする遊びは、幼児が発した言葉をどのような動きやポーズに表現するか工夫する。友だちの動きに刺激を受けどんどん変化する表現活動となる。

③ 擬音語表現活動・・・「いったりきたりひげじいさん」⁴⁾

左右に歌いながら移動型手遊び。ポイントは伸ばす音を幼児が考え、オノマトペを歌いながら工夫して動く遊びである。筆者の「伸ばす音を考えて」の問いかけに口々に発する言葉をホワイトボードに書き、どの言葉に替えるか幼児と一緒に考える。選んだ言葉に動きをつけて手遊びを始める。

- ・(右に動きながら)とんとんとんひげじいさん
ビョーン、(左に動きながら)とんとんとん
こぶじいさんベチャ・・・・・・
- ・シューー、ベチャ
- ・ビョーー、ジャンプ
- ・シャーー、コテ

2つのオノマトペを入れながら表現する活動は、一人ひとりが声の工夫をし自己表現を楽しむ姿が見られる。幼児が考えたオノマトペを自ら工夫しながら動く活動は、身体表現、言語表現の面において全員が個性あふれる自己表現となる。

④ 言語認知表現活動・・・「座りっこ競争」⁴⁾

筆者の「どんな座り方があるかな」の問いかけに

6つのポーズが出る。

1. おやま座り（ひざ抱え座り）2. おとうさん座り（正座）3. 赤ちゃん座り（両足のばし）4. お姉さん座り（横すわり）5. おにいさん座り（片足ひざだし）6. おばあちゃん座り（ハの字に開くひざを開く）

6つの座り方を幼児が考え座り方を決める。その後、声を出さずに手拍子5つから筆者の「おやま座り」の声に急いでポーズを変えて遊ぶ。

- ・おやま座り，おとうさん座り，赤ちゃん座りの3つのポーズに挑戦する。
- ・おやま座り，お姉さん座り，おとうさん座りの3つのポーズに挑戦する。
- ・お姉さん座り，おばあちゃん座り，おにいさん座りの3つのポーズに挑戦する。

集中して筆者の言葉を聞き取り，決めたポーズを表現する。最後のおにいさん座りのポーズは中腰のポーズのため体力的に厳しいが，たいへんさを楽しんでいる。短い時間の即時反応遊びはクラス全体が集中して笑顔になれる活動となる。

⑤ オノマトペの掛け合い活動・・・「はらぺこあおむし」⁵⁾の曲

エプロンシアターを見せながら全員で歌う。その後，筆者の「りんごをかじるとどんな音がする」の問いかけに「シャキーン」「シャー」「シャキシヤキ」と口々に返答する。歌詞を歌うグループとオノマトペを歌うグループに分かれ掛け合いを始める。

げつようび（シャキーン）げつようび（シャキーン）
りんごを一つ食べました（シャキーン）それでも（シャキーン）
まだまだ（シャキーン）おなかはぺこぺこ（シャキーン）
月曜りんご：シャキーン，シャー，シャキシヤキ（手を伸ばしながら）
火曜日梨：シュワシュワ（指を動かしながら）
水曜日すもも：ポーーン（裏声で歌いながら手の動きは下から上へ）

木曜日イチゴ：シュッ（すばやく手を動かす）
金曜日オレンジ：キンキンキンキン（4拍子が6拍子に変化する）

オノマトペに合わせて動きを変化させ声の抑揚も加える表現が見られる。オノマトペに合わせた上

下，左右の動きや声の出し方は大小，短く切る，伸ばすなど，幼児によって違う自己表現が見られた。オノマトペをたくさん入れると4拍子から6拍子に変化するおもしろさを体験する。

⑥ 音遊び活動・・・「はらぺこあおむし」⁵⁾の曲

筆者の「この楽しい歌に音入れてみよう」の問いかけに，男児が楽器置き場を指して「あそこにあるよ」と答える。更に，「楽器でなくてもいいよ」の問いかけに各自が普段使っているおもちゃ等を持ってくる。最初はトンゴ，カプラ，ドミノなどを持ってきたが，もう一度探しに行きトンゴ，おもちゃ入れケース，呼び出しベル，ドミノ，カプラ，おもちゃの木のレジ，ペットボトルふた，小さい本，お菓子箱を持ってくる。筆者の「どんな音がするか鳴らしてみよう」の問いかけから，歌詞「げつようび げつようび りんごをひとつたべました それでもやっぱり おなかはぺこぺこ」部分に一人ずつ音を入れている。発表は一人ずつ音を鳴らし，その他の幼児は歌うことにする。みんなの歌に合わせ自分なりに工夫した音のリズム即興が始まる。

発表では，各自が思い思いに持ち寄った素材から，歌に合わせ工夫しながら音を奏でる姿が見られた。呼び鈴を奏でる女児は呼び鈴を振り，かすかな音をクラス全員で耳を澄ませて聴いている。ペットボトルのふたを選んだ女児は，叩くのではなく擦る方法で音を合わせる姿が見られた。歌う側の工夫は音が聴こえるように小さく歌ったり，ゆっくり歌ったりと音の大きさにより歌い方に工夫が見られた。一方，リズムの特徴は拍に合わせ最後まで同じリズムパターンで即興する幼児が多く，4分音符，2分音符で拍子にあわせるリズムパターンと途中休符を入れるリズムパターンが多くみられる。このことから，4月の段階では，リズムを途中から変化させるという発想が乏しく，鳴らし始めたリズムパターンで最後まで終える傾向が見られた（表1）。

発表後に筆者が「みんなが持ってきたものは思ったとおりの音だった」と問いかけると半数が「思ったとおりの音がした」と答え，もう半数が「思っていた音と違って」と答える。どのように違ったかは，「カチーン・大きい音・チーン・きれいな音・低い音・キーン・かっこいい音がする」と思って持つ

てきた」と答え、実際に鳴らしてみると「思っていた音とは違っていた」と答えた。幼児は手にした素材がどのような音をするか予測し期待して鳴らしている。このことから、クラスにある遊び教材も同じ素材ばかりではなく、違った形や異素材の種類が必要とを感じる。

2.2 N保育園 5 歳児， 2 回目活動：「雨の日」の表現活動

参加幼児：18人（女児9人，男児9人）
 活動日時：2018年5月23日 13:20～14:10
 活動手順：以下の①～④の手順で，担任との事前打ち合わせ，フラフープ活動，絵本の読み聞かせ活動，雨の音探し活動を行う。

表 1 N保育園における「はらぺこあおむし」音遊び





空き箱（大），おもちゃ入れ紙 ケースプラッチック），カプラ （2ケ），つみき（2ケ），長つ みき（2ケ），おもちゃ入れプ ラッチックケース	
おもちゃ入れケース（紙，プ ラッチック），おもちゃの木レ ジ（写真1） トンダ，呼び鈴	
空き箱（小），つみき（2ケ）， ペットボトル（写真2）	
ペットボトルのふた（2ケ）	



写真 1



写真 2

① 〈担任事前打ち合わせ内容〉

クラスの園児が家から持って来た、あお虫の卵をクラスみんなで育てている。現在は、さなぎになり子どもたちは毎日観察している。あお虫がさなぎになる成長を毎日楽しみにしている様子が伺える。幼児の会話には「今日で何日目」などと、蝶になるのをクラス全員でワクワクしながら待っている姿がある。園庭では、ダンゴ虫を探しに夢中になり見つけては触り観察している。気の合うと友だちと毎日秘密の場所を探しに行く姿もある。しかし、自衛隊（同じ市内）基地からの連絡で、敷地内に「セアカゴケグモ」が発見され、園庭での虫探しがダンゴ虫のみになる。今の時期は園庭にいろんな種類の草・花・虫が生息し、子どもたちも自然の中での遊びを楽しみにしていたが残念である。一方室内では、異年齢保育やクラスでわらべ歌から二人組みになりふれあい遊びを楽しんでいることを聞く。そこで5月は季節を感じながら小グループでのふれあい遊びで二人表現の楽しさを味わう活動と雨が続けているため、雨に身近な素材を当てるとどんな音がするか、身近な素材の鳴る音や自然の雨の音に興味を持ち「聴く・感じる・工夫する」体験を計画する。

② フラフープ二人活動・・・「あんたがたどこさ」⁶⁾

この教材には、わらべ歌「あんたがたどこさ」を使用してボール遊びが提示されていたが、ボールの代わりにフラフープを使用する。フラフープは個人の遊びや電車ごっことして楽しんだ経験があるが二人で遊ぶ経験がない。今回はわらべ歌にあわせ協力してフラフープを動かす楽しさと即時反応活動を行う。

- ・二人でフラフープを持って向き合う。
- ・フラフープを床に置き、周りを歌いながら廻る。
- ・ゆっくり歌いながら「さ」の箇所では足をフラフープの中に入れる（写真3）。
- ・ゆっくり歌いながら「さ」の箇所ではタッチをする（写真4）。
- ・ゆっくり歌いながら「さ」の箇所ではジャンプする。
- ・歌にあわせて横、縦、床に着けてフラフープを廻しながら離すなど二人で協力する。
- ・「さ」の箇所ではつないでいる手を上げる。
- ・「さ」の箇所ではつないでいる手を下げる。



写真3



写真4

フラフープ使用のリズム遊びは、異年齢で歌い慣れている「あんたがたどこさ」を使用したのが、歌いながら動作を入れるのは意外に難しいようで歌がほとんど聞こえなくなる。特に、二人で協力しながら動かす活動は、ゆっくり過ぎると歌いにくく速すぎると動作が伴わない。リズムに合わせると歌いやすく動かしやすいと考えたが、拍が取りにくいせいかなんだん歌が聞こえなくなった。また、普段から良く知っている「あんたがたどこさ」を使用したのが、わらべ歌の中で比較的長い歌のため、二人で動きを合わせて表現するのは難しいようで、充分遊びを楽しめる活動になっていない。移動場面でフラフープを踏み転びそうになったことから移動前の声かけが必要と感じる。

③ 絵本の読み聞かせ活動・・・「ぼく だんごむし」⁷⁾

クラス全員に人気のダンゴ虫。みんなが興味を示しているダンゴ虫の絵本を読む。この絵本の内容は、ダンゴ虫がエビやカニと同じ甲殻類のなかまで固い外皮を作るためにコンクリートを食べる。また、いろいろなものを食べることから「自然界のお

掃除屋さん」と言われていることなど、ダンゴ虫の観察絵本である。

- ・ダンゴ虫が園庭のどこにいるか聞く。
- ・ダンゴ虫は何を食べるか聞く。
- ・ダンゴ虫の色や大きさについて聞く。
- ・絵本を読みダンゴ虫の餌や家、脱皮の様子など、絵本の内容を振り返る。

虫についての興味は幼児によって違いはあるが、園庭で毎日見るダンゴ虫にもっと興味が持て、今の時期に園庭で出会う虫に興味を持つきっかけとなる。

④ 雨の音探し・・・身近な素材の紙や廃材使用

当日は朝から雨が降り午後になっても降り続いていた。そこで、急きょ「雨の音探し」を行う。身近な素材の紙（ダンボール、荷造り用紙、不織布）、食品用トレー（大・中・小）、ビン、缶、レジ袋、荷造り用ビニール、卵パックなど準備する。筆者から「今日は朝からずっと雨が降っているね。傘に当

たる雨の音はどんな音だった」この問いかけに、幼児が「シャー、ポツポツ、ザーザー」などと口々に言う。

次に、筆者が事前に用意していた3種類の紙（ダンボール、荷造り用紙、不織布）を見せながら「雨が紙に当たるとどんな音がするかなあ」聞くと、ダンボールは「ドン・バン」荷造り用紙は「パラパラ・ポンポン」不織布は「ピラピラ・ビョンピョン」と子どもが音を予測する。

- ・みんなで1階の軒下に移動する。
- ・雨の音を聴いてみる。

筆者の「さっきの紙の音はどんな音かな」の問いかけに幼児がそれぞれの紙を持ち雨にかざす。

- ・3種類の紙の音を聴く（写真5）。
- ・雨に当てる素材を選び、持ち方や当て方の工夫をして聴く（写真6）。
- ・場所を移動して雨の音を聴く。

3種類の紙の音は、紙の持ち方によって音の違いに気づき、手で紙をピーンと引っ張りながら聴く幼

表2 N保育園における「雨の音探し」

ダンボール	トントン・ポトポトーン・ポトポト・ドンドンド・パパパパーン
荷造り用紙	パンパン・ベチャベチャ・トントン
不織布	ポチャポチャ・ポッ ポッ・ボンボンボン（小さい音・聞こえない）
食品用トレー	ドドッドドッドドー・パーーン✕・ボンボーン・カンカン✕（音が大きくて響く）
ビン	ポツポツ・チンチン
缶	テンテン・ポタポタ・カンカン
レジ袋	パパパパパ・パンパン・ポチポチポチ
荷造り用ビニール（でこぼこ）	プチャプチャパチャパチャ
卵パック	ベチャ・パリンパリン・ポトポト



写真5



写真6

児や頭の上に置き聴く幼児など、様々なスタイルで音探しが始まった。事前に予測した音を聞いてみると抑揚がなく言葉の繰り返しに過ぎなかったが、実際に音を聴きながら発するオノマトベには、声に抑揚があり強弱や高低などの表現があった。実体験の重要性和面白さが声に表現されている。

次に、幼児が気に入った素材を持ち音を探し始めると、軒下では場所移動をしながら雨粒の大きさや勢いで音が違うことを発見している。また、食品用トレーを持った女児からは、素材を持つ箇所を工夫しながら変え、音の大きさを楽しみ大きい音が出ると「すごーい音」と叫びながら「ドドドドドドドー・パーーーン♪」と跳ねるような動きを伴ったオノマトベ表現になり印象的であった(表2)。

雨の音探しは、一人ひとりが素材を選び素材に雨が当たる音を楽しんでいた。一斉に素材を雨に当てる活動は、音が比較的大きい素材には声反応があり、薄い紙素材は音が小さく聴きとりにくい状況であった。しかし、気に入った素材の音探しは、一人ひとりが耳を澄ませて聴く姿や素材の持ち方や雨を当てる箇所を変えながら楽しんで音探しをする姿があり、いきいきとした表情が見られた。雨の自然現象観察から素材による音実験が始まり、季節の中で味わえる遊びから「聴く・感じる・工夫する」体験となった。

2.3 N保育園5歳児、3回目活動：「プラネタリウム見学」行事後の表現活動

参加幼児：18人(女児9人、男児9人)

活動日時：2018年6月27日 13:20~14:50

活動手順：以下の①~⑤の手順で、担任との事前打ち合わせ、かかわり遊び、絵本の読み聞かせ活動、ロケット身体表現活動、紐で作るロケット制作活動を行う。

① 〈担任事前打ち合わせ内容〉

前日にプラネタリウムの園外行事を体験している。当日の午前中は前日に星や星座、月について知り、何月生まれは何の星座かなど友だちと言い合っている姿や東西南北の方角を担当から聞き東の空にできる星について話す姿が見られた。今週の木曜日には満月になることも聞き興味を示していたことを知る。

前回に引き続き、一人表現から二人表現とかかわり遊びに展開できる内容を計画する。特定の子も同士の遊びは展開しているが、誰とでもかかわれていないことから、動きながら出会った友だちとくつつく遊びを提案する。そのあと、からだ遊びから、紐を作るロケットを6人の3グループに分かれ話し合いから協力して制作する活動を行う。この時期は、一つの目標に向かって話し合い形にする遊びが少ないということから、小グループでの制作活動を提案する。

② かかわり遊び・・・「タコクロナイズド・スィミング」⁸⁾

朝から晴れたり曇ったりの天気で蒸し暑い。幼児の「熱くて汗が出た」の声から、筆者の「暑いから海で泳ごう」の掛け声で遊びが始まる。

- ・一人表現 タコ、イカ、クラゲになって泳ぐ。
- ・泳ぎ方変えてタコ、イカ、クラゲになって泳ぐ(写真7)。
- ・かかわり遊び タコ、イカ、クラゲになって泳ぎながら友だちを触る。



写真7



写真8

・海の生き物 サメ、カメ、ペンギン、クジラになって泳ぐ(写真8)。

筆者の「タコは手を上げてクネクネ、イカは手をピンと伸ばし、クラゲは指をもじゃもじゃ動かすよ」の声がけから歌に合わせて動きが始まる。近くの友だちにタコ、イカ、クラゲになって触りあう場面では笑い声がクラスに響き、たくさんの友だちとかわろうとする積極的な姿が見られた。

筆者の「他に海にいる生き物になって泳ごう」の問いかけに、サメ、カメ、ペンギン、クジラが挙がり、それぞれの生き物の動きを考える。サメはガブッ、カメはテクテク、クジラはシュー、ペンギンはチョコチョコに決まる。動き始めると生き物になりきって動き、近くの友だちや遠くの友だちまで、移動しながらかわり遊びを楽しんでいる。

海の生き物になりきって動く遊びは、一人表現から二人表現に展開後、場所を移動しながら小グループのかかわり遊びへと展開した。出合った友だちと思いきり動き、ほぼ全員がクラスの友だちとかわりながら表現している。

③ 絵本の読み聞かせ活動・「パパ、お月さまとって！」⁹⁾

動きの後には、少し落ち着いてから昨日のプラネタリウムのお話を聞く。幼児が星や月、宇宙に対して見たこと聞いたこと、一生懸命伝えようとする表情から伺える。筆者の「星の色はどんな色があったの」「月は大きさが変わるの」などの問いかけに「星は赤やオレンジ、白、黄色の色があったよ」と答え「明日が満月でまんまるになる」と話してくれる。

「パパ、お月さまとって！」には画家としての色彩が印象的で、長い長いはしごをかけて月をとりにいく画面では横に画面が広がり、大きな月の場面ではしかけがあり幼児がどの場面もあっと驚く内容としかけが楽しい。読み聞かせが始まると、幼児の表情は主人公モニカと同じように本当に月をとって遊べるのではと思えるような雰囲気になっていた。

④ 身体表現活動・・・「がったいロケット」¹⁰⁾

筆者の「絵本にでていた月に行こう」「月までどうやって行こうか」の問いかけに「ロケットになっていく」の返事からロケット遊びが始まる。

- ・一人ロケットになって月まで行く(写真9)。
- ・筆者の「合体」の掛け声で、近くの友だちと合体ロケットになり月まで飛ぶ。
- ・筆者の「分解」の掛け声で、合体ロケットから一人ロケットに戻る。
- ・合体・分解の掛け声を3回繰り返し、違う友だちと合体できるよう促す。

一人表現ではロケットの表現がみんな同じ表現になり、頭の上に手で山の形を作り動く。速く走れるポーズではあるが動きに個性は見られない。筆者の「合体」の掛け声で、二人で手をくっつける姿が多く見られ(写真10)、しだいに並列や丸になる合体ロケットも現れ、出会った友だちと瞬時に反応するからだ遊びを楽しんでいる。二人で動きやすいように動きながら形を変える変身ロケットも現れる。

ロケットになりきる遊びは、一人ロケットの表現がみんな同じポーズになったことから、速く動けるロケットになりたい思いが強く感じられた。この場面は、筆者が声を掛けていればもっと違ったロケットを表現したと思われる。



写真9



写真10

⑤ ロケット制作活動・・・荷造り用紐でロケット制作

筆者が「さっきはからだロケットになって月まで飛んだね」「今度はこの紐でロケットつくろうか」「どんなロケットを作りたいかな」「グループでどんなロケットにしたいか相談しよう」と問いかける。

- ・ 6人の3グループに分かれる。
- ・ グループでどんなロケットにするかロケット名を決める。
- ・ グループに5mm紐1メートル20本，8mm紐1m20本渡す
- ・ 筆者から紐の3つの見本，丸める，切る，繋げるを見せる。
- ・ 3グループに分かれロケットを作る。

宇宙ロケット：女児4人，男児2人グループ

このグループはロケット名を「宇宙ロケット」と決め，みんなで紐を丸めて立体的に仕組み合わせる方法を取る。みんなが持ち寄った丸めた立体紐をどんどん組み合わせていく過程で，グループの思いがロケットのエンジンルームを想定して制作していることが分かる。完成したロケットは外観からはロケットの形には見えないが，エンジンルームのみのロケットに全員の意見が一致し完成する（写真11）。立体紐に長い紐を通し，右に引くと右に曲がり，左に引くと左に曲がるハンドルを協力して作る。男児が「この電池を入れないと動かないよ」と紐を束ねた電池と電池ケースを見みせる満面の笑みが印象的である（写真12）。

炎ロケット：女児3人 男児3人のグループ

どんなロケットにするか早く決まり「こんな丸の形にしよう」と話し合いの時点から意見が出ていた。最初はみんなが紐を丸く繋げることから始める。たくさんの丸の形ができた頃から，床に置きながらどんな形にするか考える姿がある。ロケットの横にある2つの丸は右が月で左が地球と話す（写真13）。まさに前日のプラネタリウム体験が幼児に影響し形に繋がった。ロケットの名のとおり紐を繋げた丸で炎を作り，どんどん長くした炎ロケットが完成する。このグループは紐を繋げた形にこだわり，ロケットの窓や炎，宇宙まで丸にこだわり作っ



写真11



写真12

ている。ロケットの2重の丸は小さい窓が先に開き，次に大きい窓が開くという2重窓になっている（写真14）。このロケットも電池で動くと男児が一本の電池を見せてくれた。

ミラクルロケット：女児2人 男児4人のグループ

ロケット名が決まらず，かなりの時間を費やしたグループである。意見を言う幼児が少なく，女児2人の意見からミラクルロケットとなる。男児4名がそれぞれの場所で自分の思っているロケットを作り始め，なかなか一つのロケットにならない（写真15）。途中で筆者が「どんなロケットにするの」と問いかけると，女児は「自分が入って跳ぶロケット」と言い，男児は「小さいロケット」と意見が合わない。筆者が「みんなで一緒にロケットつく

ろうか」と声をかけ、他のグループのロケットを紹介する。隣の炎ロケットグループから「炎が小さい」と言われたことから、みんなで協力しながら炎を作り始める。完成したロケット（写真16）を女児2人が持ち跳ぶ姿があった。

紐で作るロケットは、3グループそれぞれが話し合いから形にすることができた。話し合いの過程や作る過程で自分の意見が通らずバラバラな活動になるグループもあった。最終的にロケットを完成させたものの、一人ひとりの思いを聞きグループに伝える対応に時間を費やす。もっと早い段階で他グループの紹介や見学を促せば、もっとスムーズに進行したのではと思われる。今回のグループ活動では、いろいろなアイデアをだしながらロケットを作る姿から、自己の発揮や他者の影響を受けながら完成させ

る姿が見られた。

考察

本研究では、保育現場の行事を通して行事後にどのような遊びに展開できるか、5歳児のクラス行事を取り上げ実践を行った。この3回の実践を考察していきたい。

1. 「入園式」行事後の表現活動

1回目は入園式行事後に一人ひとりの個性が発揮できる表現活動として、擬音語表現活動、オノマトペ掛け合い活動、音遊び活動を行った。前半の一人表現活動、擬音語表現活動、言語認知表現活動において、おもむね自分なりに声を出し動くことができ



写真13



写真15



写真14

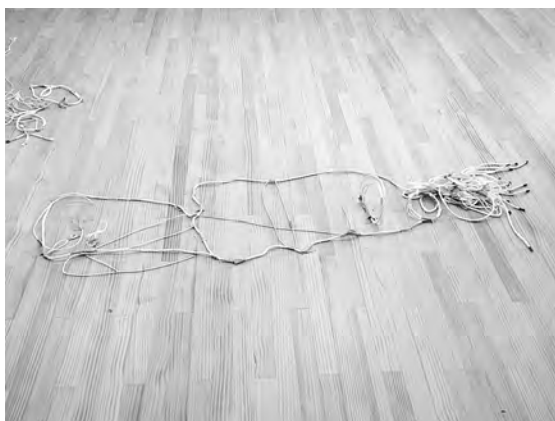


写真16

ているが、活動に慣れるまでに時間が必要な幼児もいる。また、声がほとんど出せず意思表示が弱い幼児もいた。このことから、幼児が知っている遊びから少しずつ新しい遊びに移行する展開の必要性を感じる。

後半のオノマトペの掛け合い活動、音遊び活動は幼児がいきいきと声の掛け合い表現する姿から入園式で披露できた自信を感じる。音遊びは、持ち寄った素材を何度も振ったり、擦ったり、叩いたりと鳴らし方を工夫していた。呼び鈴を叩く音と振る音が違うこと、ペットボトルを叩き方や擦ることによって音が違いに気があった。4月の時点では一人ずつの発表に慣れておらず緊張からか同じようなリズム即興が多かった。今回のような前に立って発表するスタイルではなく、その場に立ってリラックスした状態で発表できる工夫が必要である。

同じ音遊びを半年後の9月、G幼稚園5歳児25名のクラスで、合奏に取り掛かるきっかけとして実践した。音を鳴らすスタイルを自由にした結果、素材を手と足で持ちドラム演奏のように奏でる姿や、たまごパックを潰しながら音の強弱をだす方法、5種類の大きさが違う積み木を床に並べて音の違いを感じる音遊びが現れた。リズム即興は休符から始まる即興や16分音符の入る即興、伸ばす音をクレッシェンドする即興が現れた。実践園、実践時期に違いはあるが、演奏スタイルの変更や半年の経過からリズムの工夫度が増し、音楽的表現の成長を感じることができた。声のオノマトペ表現は半年後も大きな変化は見られなかったが、音遊びの即興については、成長に合わせてより複雑なリズム表現が見られたことから、音遊びの実体験の重要性を感じるとともに今後も素材を変えた音遊びを探究していきたい。

2. 「雨の日」の表現活動

2回目は雨の日にフラフープ活動、絵本の読み聞かせ活動、雨の音探し活動を行った。前半のわらべうた「あんたがたどこさ」使用のフラフープ活動は、異年齢遊びで親しんでいる曲であったが、曲が長く歌いながら二人で表現活動には適していない。次回は短くてフレーズが繰り返されている曲を選曲し、歌いながら楽しめる活動を考える。また、安全性を考え、移動時の注意点をしっかり幼児に伝達する必

要性を強く感じた。絵本の読み聞かせ活動は幼児が興味あるダンゴ虫を選書したことから、より一層虫に興味や関心が芽生えたように感じる。この興味から、園庭のたくさんの虫や草花等に興味を示し自然観察や実験に繋がれることを期待したい。

後半の音探しは、予測した雨の音は抑揚がないオノマトペ表現だったが、実際に雨の音を聴きながら発するオノマトペは、一人ひとり聴き取った音を表情豊かに声に表現する姿があった。また、雨の落ちてくる場所を幼児が探し、素材のどの部分に当てるかの工夫が見られ、持ち方や場所によって音の違いを感じている。一斉に音を聴き始めた場面では、音が重なり聴き取りにくく何度も聴き直している。少人数の音探しから幼児が耳を澄ませて聴ける環境も今後考慮すべき点である。このような自然体験、季節の行事から継続する展開を今後も検討したい。

3. 「プラネタリウム見学」行事後の表現活動

プラネタリウム見学後の表現活動では、筆者の「合体」「分解」の言葉に反応しながら一人ロケット、二人ロケット、グループロケットになり友だちと工夫しながら動く表現活動となった。友だちが替わればロケットの形もどんどん変わり、その瞬間を友だちと共有し楽しむ表現遊びとなった。今後は三人やグループ表現ができるような展開を考える。

グループで作る紐ロケット制作では、子ども同士が活動を通して考える、工夫する、自己発揮する、意見を聞くなど、ロケットを作るという目的に向かって協力する姿があった。グループによっては意見の調整が難しく筆者が一人ひとりの思いを代弁する場面もあったが、他のグループ活動が刺激となり目的を達成している。子どもが他者とふれあいながら、いろいろなアイデアに出合い共通の目的に向かって楽しむ姿は、まさに共同性の学びである。今回の紐ロケットは、床の上に作る平面ロケットを立体的にするために形の工夫や配置など、グループで協力しながら作る姿が見られた。紐以外に廃材やビニール等を材料に加えれば制作過程で素材の音に興味や繋がると思われる。また、素材が違えば立体的あるいは移動式の作品や既に設置されている遊具に素材を加えるアート作品に発展できる。今後も素材研究を行い新たな実践を検討したい。

4. 今後の表現活動への示唆

本研究では保育現場のクラス行事に着目し、行事から展開する表現活動の実践を行った。行事の感動体験を持続しつつ、どのように育ってほしいかを保育者から充分聞き取り、その日の幼児の状況を把握し、計画した内容を展開する活動を行なった。幼児の表現活動から活動内容の流れが的確であったかを振り返り、次の実践に向けての課題を見出す実践となる。

4月から6月の実践時期は、1人で表現する動き、声に工夫がみられ周りの友だちの刺激を受けながら自由に活発に表現している。2人になるかわり遊びは、2人で工夫しながら表現しているグループもあれば、周りに左右され同じような動きになる傾向もみられた。からだ遊びやかかわり遊びは、誰とかかわっても個性を出しつつ、お互いに工夫しながら表現活動できる内容や展開が今後の課題である。音遊び、雨の音探し、紐ロケット制作は、素材によって表現幅が大きく変わることから、普段から使用している生活素材、保育現場ではあまり使わない素材にも目を向け、子どもの創造性を活かせる素材研究を課題とする。

今後は、クラス行事だけでなく園全体の行事に着目し、連続的な展開から豊かな表現活動の可能性を探っていきたい。

謝 辞

本研究には、ご協力いただきました香川短期大学附属のぞみ保育園の先生方と5歳児クラスの子どもたちに感謝いたします。

引用文献

- 1) 汐見稔幸 (2018)『こども・保育・人間』学研, pp.32-39
- 2) 文部科学省 (2018)『幼稚園教育要領解説』フレール, pp.233-247
- 3) 安藤千秋・深田昭三 (2018)「手作り楽器と音素材を用いた幼児の擬音表現・音描画・音即興の試み」香川短期大学紀要 第45巻
- 4) 徳畑 等・藤本 裕美 (2010)『0～5歳児のちょこっとあそび じっくりあそび196』ひかりのくに, pp.10 pp.11 pp.25
- 5) 近藤憲一 (2007)『いっしょに歌おう! エリック・カール絵本うたソングブック』コンセル, pp.32-37
- 6) 神原雅之 (2013)『教材 楽しみながらからだを動かす1～5歳のかんたんリトミック』ナツメ社, pp.144
- 7) 得田之久 (2005)『ぼく、だんごむし』福音館
- 8) ケロポンズ (2004)『うたってあそぼう!! ケロポンズ2』ひかりのくにpp.23-25
- 9) エリック・カール (1986)『パパ、お月さまとって!』偕成社
- 10) 新沢としひこ (1996)『新沢としひこあそびうた だいすき!』鈴木出版pp.38-39